



福井城下の刀鍛冶 ～越前新刀オールスター～

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 令和6年2月3日(土)～
3月12日(火)
- 休館日 2月19日(月)、20日(火)

江戸時代前期、越前は全国有数の刀剣の産地としてその名を知られ、多くの刀工（刀鍛冶）が福井城下及びその周辺で刀を鍛えました。彼らが遺した作品は現在でも「越前新刀」という日本刀の一ジャンルとして認知されており、国指定の重要文化財をはじめ、文化財として大切に保存されているものもあります。

本展では福井城下町に集った腕自慢の刀鍛冶たちの軌跡を、作品とともにご紹介していきます。

康継

初代康継は通称を下坂市左衛門と名乗り、近江国坂田郡下坂郷（現在の滋賀県長浜市）で活動していた「下坂鍛冶」というべき鍛冶集団の中心的存在であったと考えられています。その下坂鍛冶は戦国末期、越前に移住してきました。結城秀康（徳川家康の次男、初代福井藩主）が福井城（当時の呼称は北庄城）とその城下町の建設を進めていた慶長10年（1605）頃には、康継を中心として、近江国のほか、美濃国から一乗谷に移住していた「越前関」と呼ばれる刀工たちなどが合流した大規模な刀工集団「下坂派」が成立し、康継はそのリーダー的存在であったと考えられます。

初代康継は越前松平家のお抱え鍛冶を務めながら徳川家康にもその手腕を見込まれ、大坂夏の陣で落城・炎上した大坂城から被熱して刃文を失った状態で運び出された名刀の再刃（再度焼き入れして刃文をつける）を行うなどの活躍を見せ、徳川將軍家のお抱え鍛冶としても名を知られました。

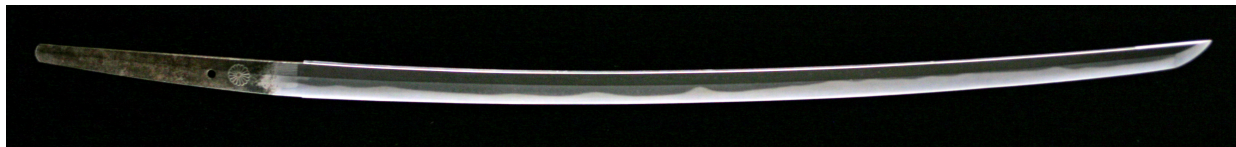
「康継」の名はその後代々引き継がれ、幕末に至るまで越前において9代、江戸において10代続き、それぞれ福井藩、徳川將軍家のお抱え鍛冶として活躍しました。

越前松平家伝来の初代康継作脇指
（脇指 銘（葵紋）於武州江戸越前康継 / 以南蛮鉄造）
（越葵文庫 当館保管）



国清

康継と並び「越前新刀」を代表する名工として知られるのが国清です。信州松代の刀鍛冶島田助宗の嫡男で、「新刀の祖」として知られる堀川国廣の晩年の弟子であったとされています。松代の領主であった松平忠昌（福井藩2代藩主忠直の弟）が寛永元年（1624）に3代藩主として北庄に入封しているので、国清は松代領主時代の忠昌のお抱え鍛冶となり、主君に従う形で越前に来たと考えられます。また彼は寛永5年に朝廷より「山城守」を受領したとされており、茎に「山城守藤原国清」の銘と菊の紋を刻んだ作品が多く遺されています。「国清」の名跡も福井藩お抱え鍛冶として幕末まで10代続きました。



越前松平家伝来の初代国清作刀
（刀 銘（菊紋）山城守藤原国清）（越葵文庫 当館保管）

福井藩お抱え鍛冶一重高・国次・宗道

康継・国清のほか、「播磨大掾重高」・「伊勢守国次」・「上総守宗道」といった刀鍛冶の名が、福井藩お抱え鍛冶として知られています。重高・宗道は康継率いる下坂派、国次は国清の門下と伝えられます。また記録によるとお抱え刀鍛冶にもランクがあり、康継と国清は「目付支配」、重高が「(町)奉行支配」、国次・宗道は「郡(奉行)支配」とされ、それぞれ支給される禄高にも差がありました。ただ刀鍛冶の技量はこの序列とは関係がなく、時代によっては下位の鍛冶の作が上位の鍛冶よりも評価されたこともありました。



越前松平家伝来の伊勢守国次作脇指
(脇指 銘 伊勢守藤原国次 / 越前於松岡)
(越葵文庫 当館保管)

貞国と「越前関」の刀鍛冶

貞国という刀鍛冶は初代康継の初期銘として知られる「肥後大掾」を名乗っており、作風も共通する点が多いことから、初代康継と同時代で極めて近い関係にあったと考えられており、おそらく近江国から共に移住してきたのではないかと思います。康継と同一人物であったとする説を唱える人もいます。

また兼法・兼則・兼植といった、名前の頭に「兼」がつく刀鍛冶たちは、朝倉氏が一乗谷に本拠を構えて栄えていた戦国時代に美濃国の関(現・岐阜県関市)から移住したとされ「越前関」と呼ばれています。朝倉氏滅亡後は北庄に移り、近江国から移ってきた康継ら下坂派に合流したと考えられています。



貞国作の薙刀
(薙刀 銘 肥後大掾貞国)(重要刀剣、個人蔵)

福井の外でも活躍した刀鍛冶

正則は伝によれば丹後国宮津(現・京都府宮津市)の出身で「大和太掾」を名乗り、室町時代の京都の刀鍛冶・三条吉則の子孫とも伝わります。福井城下の柳町(現・福井市春山2丁目)あたりに住んでいたといい、明治～昭和前期にあった「大和町」の地名は彼にちなんで名づけられたといえます。福井のほか京都でも作刀したとされているほか、2代目の正則は江戸でも作刀しています。

「山城守国次」は福井藩お抱えの「伊勢守国次」とは別人で康継の門下とされていますが、茎に菊紋を刻んだ作もあり「山城守」も名乗ることから、(下坂)康継・国清の両派と関係のあった刀鍛冶ではないかと考えられます。後に福井から江戸に出て活躍しました。

代々康継を名乗る下坂家が3代目から福井と江戸の2つの家に分かれて存続したこともあってか、下坂派に属する刀鍛冶の中には、福井から江戸に出て活躍した者も多く知られています。

また、福井城下の甲冑師であった長曾祢興里(虎徹)も、後に江戸に出て刀鍛冶として大成し、数々の名刀を遺しています。

ギャラリートーク

担当学芸員による展示会解説

2月10日(土)・2月24日(土)
いずれの日も午後2時から40分程度

参加無料
(但し観覧券必要)

企画展 次回の展示

日本画家 島田雪谷・墨仙親子

3月16日(土)～5月6日(月・休)

展示解説シート No.165 令和6年2月3日発行
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永3-12-1
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489
担当: 松村知也 印刷/ 宮本印刷